

# 三愛 view

発行所：三船病院相談室  
 創刊日：2003年8月15日  
 〒763-0073  
 香川県丸亀市柞原町366  
 Tel 0877-23-2341  
 Fax 0877-23-2344

## 閉鎖病棟における長期入院患者さまへのアプローチ ～多職種での関わりを通して～

10病棟 看護師主任 新開 員代

精神科病院からの退院促進が全国的に進められています。病気の症状は落ち着いているものの、退院先が見つからないため長期にわたって入院されている、いわゆる社会的入院を強いられている方々があります。しかしながらこうした方は長期入院により日常生活への適応力が低くなっている場合も多く、さらに日常生活を営む上で重大な障害を抱えている方は退院促進活動の対象者につながるのが後の方になりがちです。

このような状況の中で、日々の援助を通し気づいたことがいくつかありました。女性閉鎖病棟(10病棟)では、特に症状が強くご家族や看護師とも話をされないほど対人関係をもつことを嫌う方もおられます。周囲や病棟外への関心もほとんど示されず、スタッフは症状の安定を待つ以外に介入方法が考えられない場合もあります。しかし「母親と料理がしたい」という患者さまの何気ない一言をきっかけに、対人関係を求める患者さまの希望を叶えることで症状改善につながるのではないかと考える機会がありました。その事例をもとに閉鎖病棟での取り組みについて紹介させていただきます。

「母親と料理がしたい」という希望を受けて多職種へ介入を依頼し、医師・薬剤師・精神保健福祉士(PSW)・作業療法士(OTR)・看護スタッフによるチームメンバーでの働きかけを始めました。看護スタッフはこれまでの関わりに加えて、交換日記を取り入れ文字でのコミュニケーションも図ってみました。同時に、計4回の多職種カンファレンスを実施し、各職種の患者さまへの関わり方を検討、実践、評価していきました。そうすることで徐々に関係を築くことができ、その結果、以前は看護師に対して拒否的で何に対してもあまり関心を示そうとされなかった方が、チームメンバーでの働きかけにより病院の外の生活にも興味を持たれ、現実検討もできるようになりました。そしてそれまで困難であった院外外出を実現することができました。またOTRと1つの作品(マスコット)を完成させていくという目標を立て個別に働きかけていったことで、達成感を充足されて次のステップへとつながっていかれました。このようにチームケアを行うことでさまざまなことへの関心が広がり、行動範囲の広がりにもつながっていくことが分かりました。

今後も他職種、PSWや医師などの協力も得て時間をかけながら働きかけを続け、当初の希望であった「母親と料理がしたい」という思いを叶えられるよう取り組んでいきたいと思ひます。

これらのことをまとめると、

1. 薬物の効果だけでなくチームケアによって多少の状態改善を得ることが可能である
  2. チームケアにおいては、情報の共有と誰が何を目的に、どのように関わるかを明確にしておくことが重要である。
  3. チームケアの活動を機能的に推進するには、24時間患者さまと接する看護師が情報を統合し、関係職種へ提供することが必要である
- 上記のことが重要であることを改めて認識しました。

以前には他職種との連携が少なく、看護師のみの働きかけだけでは、有効な結果が得られない場合も多かったです。しかし、ちょっとした患者さまの声にも耳を傾け、看護師の感性と多職種によるチームメンバーでの働きかけで更なる援助が展開していくことを経験しました。今後も閉鎖病棟の中においても、より多くの患者さまの自由度拡大と症状の改善を目指し、多職種でのチームケアを心がけていきたいと考えています。



3月10日(土)ひまわりセンターにて行われた日本精神科看護技術協会香川県支部看護研究発表会で発表している様子



## 病棟担当制 OT の現状と今後の課題

作業療法課課長 香川 卓也

昨年、当院は年報誌を発刊し、その中で作業療法部門でも平成18年度の努力目標を2つあげました。1つは外来作業療法の参加者数を増やし、すでに地域で生活されている方々の生活を援助することです。もう1つは、これまで作業療法センター(以下センター)を拠点としていた作業療法士の活動の場を、各病棟に移すことです。それにより病棟内プログラムの内容充実と他職種との協業を図り、病院基本方針の一つでもある「急性期精神医療から精神科リハビリテーションまで多様なニーズにお応えします」を可能にし、より適切で効果的なリハビリテーション供給システムの土台作りをしていくというものでした。

しかし平成18年度が始まってみると、センタープログラムの枠組みを急には減らせないことやスタッフ不足等の問題もあり、実際に病棟担当制に移行できたのは昨秋9月からとなりました。当初思い描いていた計画より遅れての導入となりましたが、作業療法士が各病棟で毎朝の申し送りに参加するようになり、病棟内での作業療法プログラムの実施回数も増えたことで、入院されている方々のQOL向上に対する作業療法士一人ひとりの意識は、以前より高まってきているように感じています。

また最近では、長期入院されている方々へのクリニカルパスの導入、多職種カンファレンスの活性化などに病院全体で取り組んでおり、作業療法士も多職種チーム医療の一員として参加しています。さらに、病棟担当制として病棟に足を運び作業を行っているため、入院されている方々をセンターにて待つだけではなくみなさまの療養の場で作業体験を共にすることで、センター活動の様子だけではなかなか見えなかった個々の生活習慣や対応課題もより明確に見えてくるものと期待しています。

作業療法課は平成19年2月現在、作業療法士8名、作業療法助手5名(内パート1名)の計13名で日々の業務に取り組んでいます。特に病棟担当制となつてからはセンタープログラムも兼務で行い、各人が奮闘しているところです。さらにこれからは作業療法士が回診や訪問看護に同行することも考えています。それにはまず必要な人員を確保し、病棟内訓練(生活リハビリテーション)を毎日実施できる体制を整えることが重要だと考えます。今後も患者様のQOL向上につなげるため、リハビリテーションチームの一員として経験を積み、一人ひとりの作業療法士があらゆる面で力量向上をさせていきたいと考えています。

## 三船病院医師からのメッセージ・・・



### 「メタボリックシンドロームをご存知ですか？」

医師 吉田 綾

まずは診断基準をご覧ください。

- ①ウエスト(軽く息をはき おへその位置ではかる) …… 男性85cm以上、女性90cm以上
- ②中性脂肪 …… 150mg/dl 以上
- ③HDL(善玉)コレステロール …… 男性 40mg/dl 未満、女性 50mg/dl 未満
- ④血圧 …… 最高130mmHg、最低85mmHg 以上
- ⑤空腹時血糖値 …… 110mg/dl 以上

このうち①があり、さらに②～⑤のうち2つ以上が当てはまればメタボリックシンドロームです。これらの項目に当てはまる方は、何も無い人と比べて動脈硬化になりやすいと言われます。また上記に1つでも当てはまればこれから10年間に心臓病や脳梗塞になる危険性が5倍、3～4つ当てはまればなんと30倍にもなってしまいます。10年後の健康のためにはバランスの良い食事をとり、適度な運動をして生活のリズムを整えましょう。

食事のご相談は栄養管理室でもお受けしています。お気軽に声をかけて下さい。

【三船病院の理念】 病院の愛、家族の愛、社会の愛（三愛）に包まれた患者様の医療を目指します。

【病院の基本方針】

1. 急性期精神医療から精神科リハビリテーションまで多様なニーズにお応えします。
2. 患者様とご家族に信頼される病院作りをします。
3. 患者様の権利と尊厳を尊重し、療養生活の質の向上に努めます。
4. ご家族と一緒に患者様の退院見直しと地域生活支援を積極的に取り組みます。
5. 地域における社会資源を活用・開拓します。

## 三船病院 委員会活動紹介

### 「医療安全管理委員会」

委員長 副院長 川田 浩

現在三船病院では、医療安全管理委員会作成の「三船病院医療安全指針」に基づいて医療安全管理体制を整え、患者様に安心できる医療を提供できるよう組織的に努力しています。2005年にはそれまでの医療事故防止委員会を見直し、医療安全管理委員会と名称を変更、新たなスタートを切りました。

現在の委員会の組織体制は、以下の通りです。

- ・『医療安全管理委員会』: 医療事故を防止し安全かつ適切な医療の提供体制を確立
- ・『医療安全管理室』: 組織横断的に医療安全を推進
- ・『看護部リスクマネジメント部会』: 看護部の事故の原因分析や事故防止の具体策等について調査・検討
- ・『事故防止パトロール隊』: 多職種で医療事故防止のため巡回

このうち、新しく発足した『事故防止パトロール隊』について紹介します。

#### 『事故防止パトロール隊』

- ・構成員: 看護副部長、病棟看護師長、病棟看護主任を含む看護職員、薬局、医事課、施設課、栄養管理課、医療相談室、デイケア室等 ……計24名
- ・目的: 患者さまが安心して安全な医療を受けられる**環境を整える**
- ・内容: 多職種にて院内をパトロールし、レベル0-1のチェックを行い、各箇所に問題点を指摘し改善を促す
- ・実施頻度: 週1回(各部署への巡回頻度は月1回程度)

パトロール隊発足経緯は委員会の悩みからでした。「現場の職員は病院環境に慣れ、その環境が危険と気付にくい。そのため事故が起こりそうな環境(レベル0-1)に前もって気付いた『気付き報告』が殆ど出てこない」、その解決策として2006年9月にパトロール隊を発足し、その活動状況を委員会で報告しています。パトロール隊のメンバーは看護副部長のみ固定で、それ以外の職員は交代して廻ります。巡回し指摘することによりパトロール隊メンバー自身の医療安全に関する意識も向上し、各箇所に働きかけるため現場職員の意識付けにも大変有効です。委員会の方でも、パトロール隊の報告により病院のレベル0-1がわかるようになってきました。パトロール隊に指摘されたことを各箇所が改善することで、徐々に安全な環境が整っていくのではないかと思います。

医療安全管理で何より大事なものは、職員一人一人が医療事故を起こさないよう気をつけることです。その為には職員の意識を高め、危険に対する感受性を鋭敏にする必要があります。パトロール隊はその実行部隊であると評価できます。職員の中には指摘されると恐縮する人もいますが、パトロール隊は自分たちでは気づきにくい点を指摘してくれていると前向きに受けとめ、よりいっそう病院の医療安全管理に努める機会としてもらいたいものです。今後も患者さまが安心して安全な医療を受けられる環境を整えるため、職員一丸となってより一層努力していきたいと思っています。

#### 《委員会》

- |                    |                     |                   |
|--------------------|---------------------|-------------------|
| ・教育委員会(第1水曜日)      | ・衛生委員会(第2水曜日)       | ・病院機能評価委員会(水曜日)   |
| ・個人情報保護委員会(第1水曜日)  | ・業務改善委員会(第2水曜日)     | ・倫理委員会(年1回)       |
| ・情報システム委員会(第1水曜日)  | ・診療録管理委員会(第2金曜日)    | ・医療ガス安全管理委員会(年1回) |
| ・クリニカルパス委員会(第1水曜日) | ・薬事審議委員会(第3水曜日)     | ・予算管理委員会(年1回)     |
| ・地域生活支援委員会(第1水曜日)  | ・院内感染対策委員会(第3金曜日)   | ・接遇管理委員会(年2回)     |
| ・行動制限最小化委員会(第1金曜日) | ・栄養管理委員会(第4水曜日)     | ・診療情報提供委員会(随時)    |
| ・人権委員会(第1金曜日)      | ・褥瘡予防対策委員会(第4水曜日)   |                   |
| ・医療安全管理委員会(第2水曜日)  | ・患者サービス向上委員会(第4水曜日) |                   |



## 【介護老人保健施設 福寿荘】



計画担当介護支援専門員(准看護師) 森 敏博

世界一の長寿国となったわが国では、それに伴い「老後の生活をもっと豊かに、もっと自分らしく生きたい」というニーズが高まっています。“セカンドライフ”という言葉が表すように、これまで仕事に子育てに忙しい日々を過ごしてきた方が「やっと自分の時間ができた」と充実した生活を求め、趣味や旅行、果ては移住や事業を起こす方までいるそうです。現在、このようなニーズを満たすべく様々な事業が創出・展開され、様々な社会システムでサポートしていこうという動きが活発化しています。

そのような流れの中で、老人保健施設では健康に関するサポートやケアはもちろんのこと、入所されている方々の“生きがい”に主眼をおいたケアやケア計画が求められています。社会的ニーズという視点から見ると、“セカンドライフを支えるひとつの機関”として役割・機能を重要視されていると言えます。

現在、福寿荘では7名の介護支援専門員(ケアマネージャー)がおり、ケアプランを通して入居というひとつのセカンドライフの時間と生活をサポートしています。ケアプランとは、「入居されている方々が現在抱えている健康面等の問題と思い描く生活へのビジョンを一緒に考え、目標を掲げ、それを医師・看護師・介護スタッフ・リハビリスタッフ・栄養士・相談員の各部門が、輪となって援助し叶えていこう」というものです。現在の利用者様とそのご家族、そして社会的ニーズから見るとまだまだメニュー的にも不十分な面はありますが、今後さまざまな機関・サービスと連携しながらそれに応えていきたいと思っています。



## 【三愛会コミュニティケアセンター】

指定共同生活援助事業所 清和荘

サービス管理責任者 大路 健

平成18年10月1日より福祉ホーム「清和荘」とグループホーム「五月荘」は、香川県から障害者自立支援法に基づく共同生活援助事業所(グループホーム)の指定を受け、「(医)三愛会コミュニティケアセンター指定共同生活援助事業所 清和荘」として事業を開始しました。共同生活援助(グループホーム)は、個別に支給決定が行われる障害福祉サービスの訓練等給付にあたります。就労又は日中活動を利用し、地域において自立した日常生活を営む上で、相談等の日常生活上の援助が必要な方に対し、日常生活上の支援・相談、日中活動に係る事業所等と関係機関との連絡調整を目的として、必要な支援等を実施する事業所です。

現在の利用者は清和荘が10名(定員10)、五月荘が4名(定員4)で、利用者の主な日中活動としては、就労、地域活動支援センター利用、病院デイケア利用、病院外来OT利用となっています。職員は管理者、サービス管理責任者、世話人(清和荘1名、五月荘2名)が配置され事業所の管理運営、利用者への必要な援助の提供を行っています。

事業開始に伴い、利用者負担の発生、サービス利用のための申請、各市町からの認定調査、障害福祉サービス受給者証の発行などあり、利用者の方にも多くの変化や手続きがありました。また、事業開始後もサービスの利用契約等があり、利用者からは「なかなか落ち着いて生活できない」といった不満の声もあがりました。事業開始から半年が経過し、利用者それぞれがようやく元のペースに戻り生活されています。

今後は利用者の退所後の生活サポート体制、高齢化に伴い生じるであろう問題等様々な課題がありますが、施設移行前より提供してきたサービスの質や量を落とすことなく、他の機関やサービス事業者と連携を取りながら、利用者にとってよりよいサービスの提供を目指したいと考えています。

### 《三船病院家族会のご案内》

今年度も三船病院家族会を開催致します。ご家族の皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

日 時:平成19年5月20日(日)

場 所:三船病院

催し物:演芸会、喫茶コーナー、家族教室など



### 《編集後記》

うらかな春の日差しが心地よいこの頃、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

さて、今回の三愛 view では、新しくできる施設の特集を予定しております。クリニカルパスを導入しての退院支援、新しい施設での取り組みなどご紹介したいと思っております。ご期待ください。

(三船病院相談室PSW)